

温故知新

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介 (57) 平成 14 年 10 月 15 日

古代の官撰史書 (3)

『日本後紀』(K083-43) (213/45)

『日本後紀』は『続日本紀』につづく編年体の官撰史書で、承和 7 (840) 年に完成しています。本来は桓武紀、平城紀、嵯峨紀、淳和紀の 4 朝にわたる 40 巻があり、期間は延暦 11 (792) 年～天長 10 (833) 年までの 42 年間です。『花園天皇宸記』などにより中世まで 40 巻が伝わったことは知られていますが、応仁の乱で 30 巻が散逸したと言われ、現存するのは桓武紀 4 巻 (巻 5・8・12・13)、平城紀 2 巻 (巻 14・17)、嵯峨紀 4 巻 (巻 20・21・22・24) の 10 巻のみで淳和紀は 1 巻もありません。序や他の 30 巻については『日本紀略』や『類聚国史』などにより、断片的に知ることができます。

『類聚国史』巻 147 の「日本後紀序」には「三臣相尋薨逝。緒嗣獨存 (三臣相ついで死去。緒嗣ひとり存す)」とあるように、編者は当初は藤原冬嗣、藤原緒嗣、藤原貞嗣、良岑安世の 4 名でしたが、冬嗣ら 3 人が相次いで亡くなり、終始編さんに従事したのは緒嗣のみでした。書名はいくつか候補がある中で、「日本後紀序」に「名曰日本後紀 (名は日本後紀という)」とあり、『日本後紀』に決定されました。現存する 10 巻は江戸期に塙保己一の門人によって発見されました。当館では寛政 11 (1799) 年に京都の山城屋佐兵衛刊行の全 10 冊と、江戸後期に刊行されたと伝えられる全 10 冊の 2 種類を所蔵しています。この 10 冊に現存する 10 巻が納められています。

『日本後紀』は、『続日本紀』には見られない天皇や宮人の批判的な記述があり、これは終始編者であった緒嗣の意向によるものとされています。また、『日本後紀』には書中に和歌が 12 首あることも明らかにもなっています。42 年間で 40 巻に著し 1 年間でほぼ 1 巻の割合になっており、『続日本紀』に比べて『日本後紀』のほうがより緻密な記載となっています。平城、嵯峨、淳和の各天皇はいずれも桓武天皇の皇子であり、桓武天皇以下、淳和天皇までの 4 朝を一貫した時代として捉えて『日本後紀』が成立したとも言えます。

現存している各紀の概要は、以下のようになっています。桓武紀では和氣清麻呂が姉の和氣広虫に代わって宇佐八幡宮に神託して、皇位を望んだ僧道鏡を阻んだことなどが詳しく書かれています。また大同元 (806) 年 3 月には、桓武天皇が崩御したことも書かれています。平城紀は残存するのが 2 巻と少く、国司や郡司の監督をする六道観察使を設置したり、官吏交替の際の人事監督官である勘解由使を一時廃止したことが書かれています。嵯峨紀では平城上皇が平城京に還都したこと、藤原薬子とその兄の藤原仲成らとともに平城上皇の重祚を企てて失敗し、仲成は殺され薬子は毒を飲んで自殺した、いわゆる薬子の変などが書かれています。

【参考文献】

『新訂増補国史大系』

(210. 088/4A-3)

『国史大系書目解題 下巻』

(210. 08/汁)

『古代史論集 下』

(210. 3/516)

『六国史』

(211. 8/15)